

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和7年度 11月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

学級数	13
児童数	380名

## 「誤解」が減ると

校長 板橋 利行

先月下旬から急に寒い日が続くなど、今年は秋が短いようです。これからは、さらに気温が下がってきますので、感染症に気を付けたいところです。

### 運動会を終えて

先月18日の運動会では、最後まで応援をしていただき、ありがとうございました。各学年やブロックで練習・準備をしてきた成果をしっかりと發揮でき、子供たちの表情からも、その目的を達成できたものと思います。

全体練習の際、私は「調整力」について話をしました。集団行動で身に付ける力の一つですが、校庭で真っ直ぐに並んだり、全体で歩いたり、隣との間隔を考えて立ち位置を決めたりなど、最初はうまくできなくても何度も何度か経験することで、距離や場所を考えながら自分なりに調整してできるようになります。このことは、日常の中でも行っていますが、全校が集まる場面でこれを意識していくと、この力を高めることができます。

決まったルールの中で競い合うことや振付を覚えてみんなで演技すること、目標に向けて仲間と力を合わせること、友達やチームを必死に応援すること、そして、その応援に応えようすることなど、運動会ならではの経験は、子供たちを成長させました。

高学年の係の動きも立派でした。応援団の活躍も流石でした。勝ち負けはつきましたが、まさに精一杯に取り組んだことが成長の要因ですので、今後の学校生活に生かしてほしいと思っています。

また、当日は朝早くから準備・運営や最後の片付けにご協力いただいたPTA役員・サポーター・保護者の皆様に感謝申し上げます。

### いじめ撲滅強調月間

11月は、埼玉県のいじめ撲滅強調月間です。いじめは、どの学校でも、どの学級でも、どの子にも起こり得るものという認識で、本校でも日常的に指導しているところです。しかし、友達同士のト

ラブル(いじめも含め)はしばしば起きます。両者によく話を聞いた上で指導していますが、この際、いじめという言葉を使わずに指導することもあります。

いじめは、どの子もいけないことだとわかっていますが、ゼロになつていません。今年度は9月末までで48件を認知しています。いじめの定義は、簡単に言えば、「場所を問わず、児童間のやりとり等で嫌な思いをした」ということになります。集団生活の中では嫌な思いをすることもありますが、意図的に行っているケースは多くなく、ケンカや誤解のケースが多いのです。それでも、定義に当てはまるため、認知件数には計上します。このため、丁寧に対応するほど数は増えるという傾向もあります。

ただ、集団生活をしているが故に、意図しないところでも嫌な思いをさせてしまうことよくあります。これは「思い違い・誤解」であると言う話しを全校朝会でしました。これを減らす手立ては2つあり、①「あれっ! ?」と思ったときに、その場で「どういうこと?」などと確かめること。話してみれば、誤解が解けることは結構多いということ。②言葉遣いに気を付けること。同じことでも、言い方によって相手の受け取り方も変わるので、優しいことば遣いや態度ができてほしいということ。そして、この2つは、SNSでも同じであることも付け加えました。

ただ、気を付けていても、本当に無視されているなど、困ったことが起これば、早めに先生や家族に相談することと、友達が困っているのに気付いたときも教えてほしいことも伝えました。

誤解が減ると笑顔が増えるはずです。ぜひ、ご家庭でも話題にしていただき、何か心配なことがありましたら、お知らせください。

2学期も後半に入りました。学期末に向け、引き続きご協力をお願いいたします。